

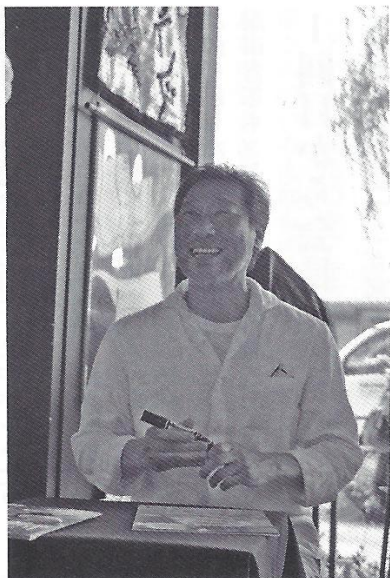


7月23日(土) 「袴田巖 夢の間の世の中」

きむそんうん

金聖雄監督 舞台挨拶

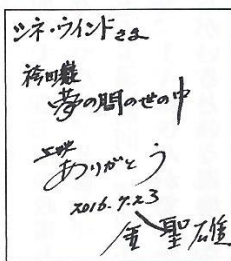
冤罪をめぐる 当事者と家族 撮り続け



▲金聖雄監督

胸に残るずっしりとした、でも不思議にどこか温かい余韻を味わっているところに登場された金聖雄監督。穏やかで少しひいた語り口は作品にも通じるものでした。

監督によるとこの作品のきっかけは意外にも袴田さんの姉・秀子さん。前作「SAYAMA 見えない手錠をはずすまで」(14年8月シネ・ウインド上映)の石川一雄さん夫妻を通じて以前から面識があったものの、秀子さんの笑顔は見たことがなかったのに、袴田さんの釈放が決まった時の弾けるような笑顔に「胸がキュンとなって」映画を撮りたくなったとのこと。また家に帰ってきて室内を無表情でぐるぐると歩き続けるだけの袴田さんを見



▲色紙

映画を見にいらしたお客様と記念写真
左：井上支配人
左から2人目：金監督

て、これからこの二人はどうやって日常を過ごしていくのだろうと心配になり、結局それから1年半、撮影を続けたそうです。

二人の生き方の素晴らしさ、袴田さんが少しずつ自分を取り戻していく場に立ち会えた幸せと共に金監督が話されたのは、冤罪を生む司法制度は誰にとつてもすぐ近くにある、それが内包する権力が今いろいろな形で噴き出しているのでは、ということ。声高な批判より、静かな声の方が胸の奥深くに届くこともあるのだと感じさせられる、作品と舞台挨拶でした。

(まつい)

■「袴田巖 夢の間の世の中」
上映は7/23〜29。